

# 子どもの感性が

札幌市長  
あきもとかつひろ  
**秋元克広**

17歳でイタリアに渡った  
頃のヤマザキマリさん



想像力を膨らませることで、心にたまった気持ちを言語化したり、絵に表現するようになりました。

**市長** 自然の観察や、本からの想像力が今の活動の原点なんです。中学生の頃には、お母様の勧めで一人でヨーロッパへ行かれたとか。ご自身の進路にも大きな影響があったのではないですか？

**ヤマザキ** 芸術の道に進みたいと言ったとき、学校で「食べていけるわけがない、芸術は社会への貢献度が少ない」と言われました。すると母は「じゃあアル・ブル美術館は何のためにあるのか、見て来なさい」と私を一人で送り出したんです。実際に行ってみると、海外では芸術の大切さが社会に浸透していました。「大抵のことは何とかなる、だめなら戻ってくればいい」という少し奇抜な母の教育は、北海道の方たちのたくましさに影響されたものだと思います。その後、17歳で留学し、お金が無く精神的葛藤も多く楽し道のないではありませんでしたが、その経験が今の活動につながっています。

**市長** 既存の価値観にとらわれず、背中を押してくれたお母様はすごいですね。子ども自身の選択肢を広げる上でさまざまな経験をさせることは大事ですね。

# 育つまち・さっぽろ

特別対談

漫画家・文筆家・画家  
**ヤマザキマリ**

東京都出身。幼少期を北海道で過ごす。17歳で渡伊し、国立フィレンツェ・アカデミア美術学院で油絵と美術史を専攻。1997年より漫画家として活動し、代表作『テルマエ・ロマエ』でマンガ大賞2010を受賞。現在はイタリアと日本に拠点を置き、文筆家、画家としても活動中。今年1月に、こども本の森 札幌・北大の名誉館長に就任。

## 北海道の大自然と 本がくれた想像力が活動の源

**ヤマザキ** 母が札幌交響楽団に所属していたため、幼少期から14歳まで北海道に住んでいました。母は北海道とは縁もゆかりもない人でしたが、札幌で初めてのオーケストラが設立されることを知り、音楽で生きていくために神奈川県から身一つでやってきました。新しい文化に対して保守的ではなく開放的であることや、自然豊かな北海道の雰囲気を感じていたようです。

**市長** その豊かな環境の中で、どのような子ども時代を過ごされたのですか。

**ヤマザキ** 母は忙しく不在がちで寂しかったのですが、大自然と家のそばにあった図書館に助けられました。自然の中でいろいろな物を観察し、本を読ん

今回の特集では、漫画家や文筆家などとして活躍し、こども本の森札幌・北大の名誉館長でもあるヤマザキマリさんと秋元市長に、子どもの想像力や人間性を育む読書の大切さや、8月にオープンしたこども本の森 札幌・北大について語り合っていたきました。

詳細 広報課 21(2023)6  
実施日 2026年8月19日  
会場 こども本の森 札幌・北大(北北区北8西6)



## デジタル時代における 本の存在意義

**市長** 最近は子どもたちだけではなく、社会全体でデジタルで情報を得たり、電子書籍を読んだりすることが増えましたね。

**ヤマザキ** デジタルは探し求める答えがすぐに出てきて便利ですが、アルゴリズム※1によって偏った情報しか入ってこず、自分が知りたい分野以外のものに出合う機会が減ってしまいます。図書館や本屋のように、たまたまそこにあった本を見て「なんだろう」と手に取るような、偶然の出会いがなかなか生まれない時代です。

**市長** 意識していなかったけれど、手に取っ

てみたら面白かったという偶然の出会いが、アナログの世界にはありますよね。

**ヤマザキ** そして、本を読み、文字から情景や人物を想像するのは、アスリートが体力づくりをするように、脳のトレーニングをしてくれるものだと思うんです。本を読むことで脳が活性化し、想像力を鍛えることに役立ちますね。

**市長** 誰もが同じものを見る映像と違って、文字から想像する世界は十人十色ですね。**ヤマザキ** そうですね。それに、一冊の本を手に取り、本の質感を感じることもとても大事です。筆者の苦労や思想、思い入れなどがたくさん詰め込まれた本一冊一冊に対する敬

豊かな自然と、本の森。  
ここで育つ想像力が、  
未来の糧になる。

愛は、デジタルではなかなか感じられないものです。

※1 検索結果の順位を決めるまでのルール

### こども本の森の 名誉館長就任は本への「お礼」

**ヤマザキ** こども本の森札幌・北大の名誉館長就任の依頼があったときは、私を育ててくれた北海道の大自然と、本や図書館に対するお礼の意味を込めて、喜んで引き受けました。

**市長** お引き受けいただきありがとうございます。安藤忠雄※2さんが設計・寄贈してくださったこの施設は、北海道大学の構内という素晴らしい環境にあります。国内にある6施設中、大学の中にあるのはここだけです。

**ヤマザキ** 学生たちが行き交う環境にこういった場所があるというのは本当に奇跡的ですし、純粋な好奇心や探究心を深める学問の素晴らしさを、子どもたちから自然に感じ取れる場所だと思います。ここは本の並べ方も面白くて、例えばここに置いてある『寶石の国』(講談社)※2という漫画を読んで石に興味を持つと、すぐ近くに石の図鑑や火山の写真集が並んでいるんです。子ども向けだけではなく大人向けの本も混在していて、いろいろな分野の本が垣根なく並んでいますよね。**市長** 子どもたちは自分の年代相応のものだ

けではなく、ちょっと背伸びをして大人向けの本を見てみたいと思うことがあるため、ここでは異なる分野への好奇心を刺激し、世界が広がるような並べ方をしています。こういう場所が札幌にあることをぜひ知ってもらいたいです。

**ヤマザキ** 大人も子どもの本を読んで面白さを発見できますし、子どもであろうと大人であろうと、多面的な視点を開拓していく機会がこの図書館にはあります。本を並べた方たちの思い入れも感じます。デジタルの時代にこうしたアナログなものに情熱を注いでいる方がいるのがとてもうれしいですね。

※2 市川春子 著

## 読書を通じて人間らしい 知性を育んでほしい

**市長** 札幌には、絵本に特化したえほん図書館や、働く人向けの図書・情報館といった特色のある図書施設があり、こども本の森はそれらに次ぐ三つ目の特徴的な図書館です。現在、小学生や高校生の不読率※3が年々上がっているという課題があるため、子どもたちにはこの図書館で、わくわくしながら新しい情報に触れて未知の分野に踏み込んで行く気持ちを育んでほしいと期待しています。

**ヤマザキ** 子ども扱いされるのを嫌う子ど

もいますから、できるだけ規制をかけずに、可能性や想像力を伸ばしてほしいです。生きるということとは、ただお金を生み出したる有名になったりすることだけではなく、好奇心や探究心を突き詰めていくことでもあります。ここは、そうした探究を手助けしてくれる場所です。大自然の中でリラックスしながら本を読み、人間らしい知性を育ててほしいですね。

**市長** 本を読み、自分の頭で考え、いろいろなことを想像していく作業が特に子どもの時代には必要ですね。

**ヤマザキ** 私は創作や表現といったものを、人が生きるための心の栄養を生み出す「精神面での第一次産業」と呼んでいます。食べ物

が体を支えるように、本は心を支える根源です。なので、これだけ本がたくさんある空間にいと、心が豊かになってくまじい気持ちになれるし、安心感があります。子どもたちにも、本が与える安心感を感じてもらいたいです。とりあえず一度はお子さんを連れてきていただき、本を読むということを経験してもらいたいですね。

**市長** そうですね。本が与えてくれる安心感の中でたくさんの方の新しい世界を知り、自ら考えて行動できる人間に育ってほしいと願っています。我々大人が、そうした環境をしっかりと用意してあげることが大切ですね。

※3 1カ月間に本を1冊も読まなかった子どもの割合



### こども本の森 札幌・北大

住所 北区北8西6 北海道大学構内南門付近  
開館時間 10～18時  
休館日 第2・4水曜、12/29～1/3、蔵書一斉点検期間、北大の行事などに関連した臨時休館日  
アクセス JR札幌駅から徒歩約10分 ほか  
詳細 ☎788-8700



予約方法などの  
詳細

## ヤマザキマリさんに聞いてみた!



家にいる時間が長くなる冬に向け、子どもや親子にぜひ読んでほしいおすすめの本のジャンルと、その理由を教えてください



写真集や冬ならではの温かい物語がおすすめ

長い冬は家で集中して読書ができる良い機会です。活字が苦手な方には、世界の多様な暮らしや価値観が目で見分けるような内容の写真集や、図鑑などが大人も一緒に楽しめるのでぴったりです。また、寒い国を舞台にしたお話は北海道で読むと心に染みます。『てぶくろ (ウクライナ民話)』(福音館書店)※という絵本は私も大好きな一冊です。

※エウゲーニー・M・ラチョフ 絵/うちだりさ 訳



Photo\_ノザワヒロミチ

日本だけでなく海外を拠点に活動しており、さまざまな文化に触れてきたヤマザキマリさん。子育ての悩みや、おすすめの本のジャンルなど、気になる質問を一问一答の形式でお聞きしました。



「うちの子はスマホばかり見て本を読みません」と悩む子育て中の方にアドバイスをお願いします



大人が楽しそうに本を読むところを見せましょう

まずは大人自身が楽しそうに本を読んでいただけたらと思います。身近な人が本を読む姿を見ることが、子どもたちは本に対する関心を持ちます。このご時世なのでスマホから無理に遠ざける必要はありません。スマホで全部が満たされるわけではなく、本が好奇心を満たすツールでもあることに気付けるように、ご両親が率先して取り組んでみましょう。

## 「ヤマザキマリの世界」を開催!

14歳で初めてヨーロッパを旅して以来、国境のない生き方を続けるヤマザキマリさんの活動の源泉がどこにあるかを探るため、「漫画家・文筆家・画家」という三つの側面から、その広大な世界を網羅する展覧会を開催します。

日時 来年2/20(土)~3/28(日)

会場 サッポロファクトリーギャラリー (中央区北2東4)

申込 12月発売予定。申し込みの詳細は決まり次第ホームページに掲載

詳細 政策企画部プロジェクト担当課 ☎211-2775

ホームページ



## ヤマザキマリさんの著書を各5人計10人にプレゼント!



ヤマザキマリさんの直筆サイン入り!

ヤマザキマリさんが選書! 選んだ理由をお聞きました

①『ヴィオラ母さん 私を育てた破天荒な母・リョウコ』(文春文庫) 札幌と私の家族とのご縁がこの本に全て表現されています。札幌交響楽団に女性第一号として入団した私の母の「世間体を気にせず自然を味方につけて歩んだ破天荒な生き方」を、この本を通して感じてもらえたらと思います。

②『扉の向う側』(マガジンハウス)

私が関わったさまざまな国の人たちの話を、小説的な形で書いたエッセイです。それぞれの国の人々の多様な生き方を知ること、世界に対して見識を広げ、好奇心を持っていたきたいです。

読者プレゼント

応募方法 はがき、ホームページ。「読者プレゼント希望」と記載の上、①②のいずれかの番号、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の感想を記入し、10/21(水) (必着) までに広報課 (1ページ) へ。抽選

申し込み

